

自動給餌機を使用しない ウチダザリガニ用連続捕獲装置の開発

高橋清孝・長谷川政智・根元信一(シナイモツゴ郷会)
室田欣弘(UWクリーンレーク洞爺湖)

大崎市里山のため池では自動給餌機を備えた連続捕獲装置によりアメリカザリガニを捕獲し低密度を維持しています。これを広く普及するためには、簡単化とコストダウンが求められています。また、北海道等では水深10~20mに生息するウチダザリガニを効率的に捕獲する漁具の開発が急務となっています。これらの課題をかいけつするため、自動給餌器を使わない連続捕獲装置を試作し、実証実験を行いました。

入口:
ザリガニ
が侵入

明室:小型の
アナゴカゴを
連結。

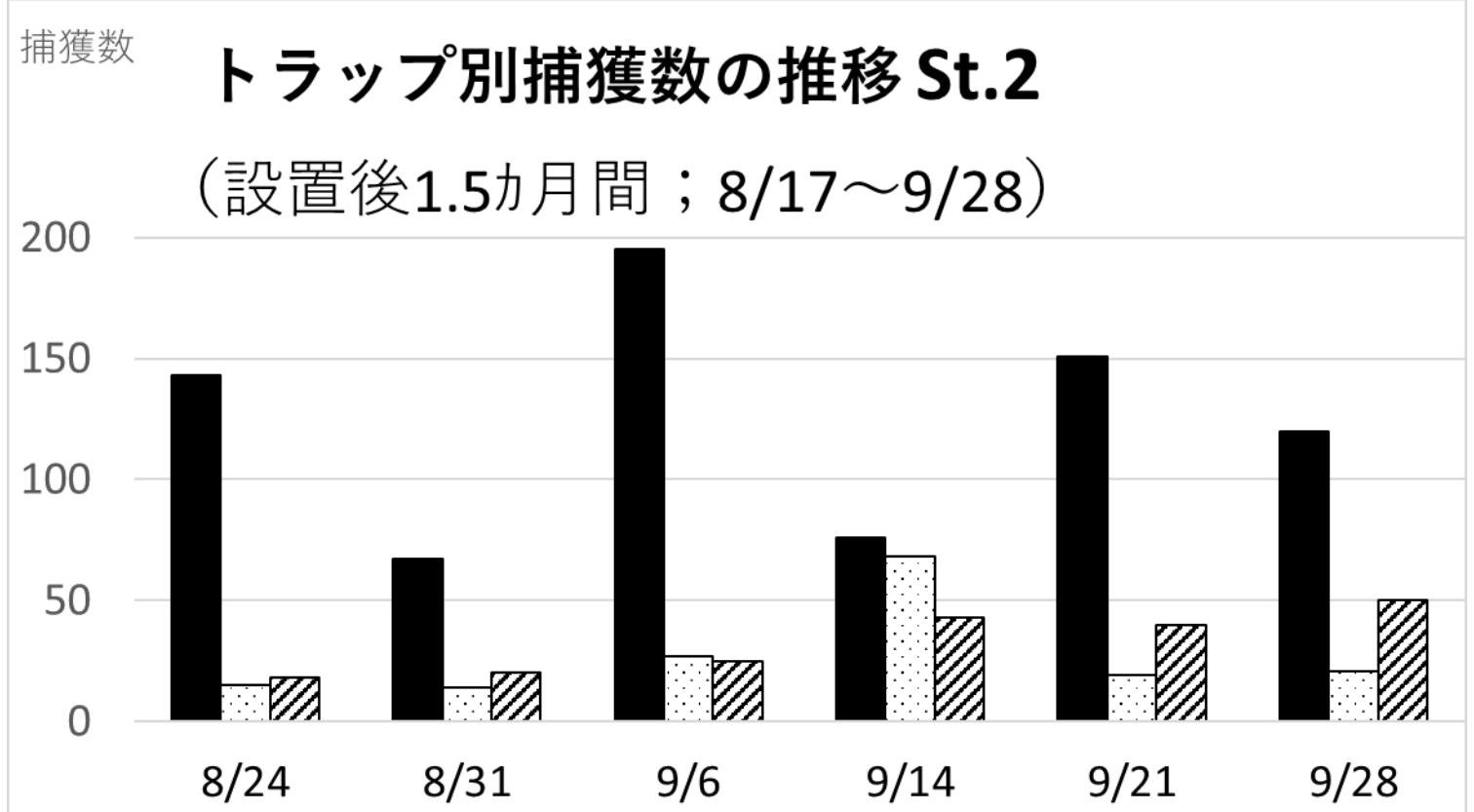
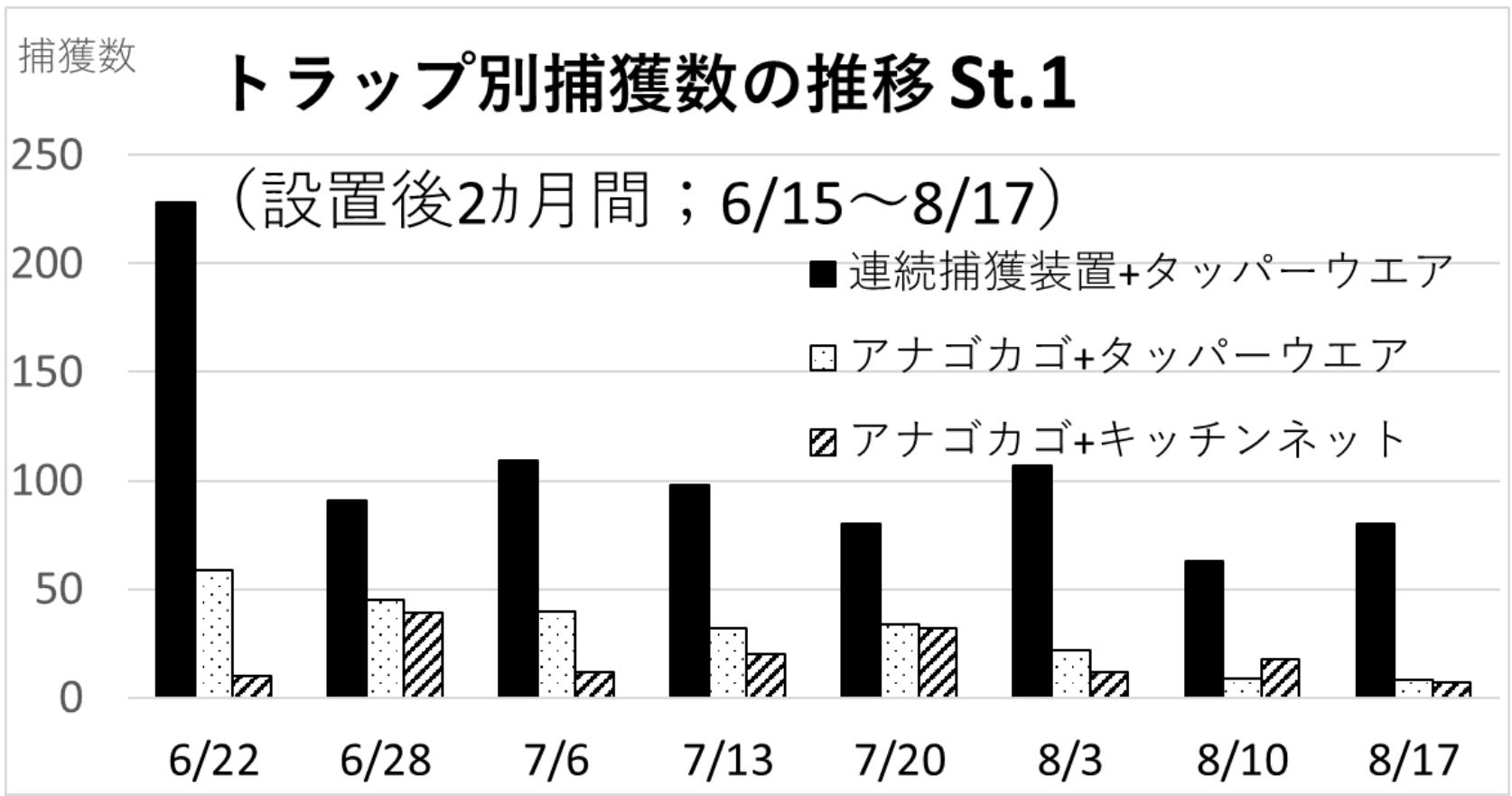
暗室:プラスチ
ックネットをか
ぶせ暗くしてい
ます。

ザリガニ取り
出出口:ヒモ
で結束。

餌:ドッグフードをいれたタッパーウェア
3個、穴の大きさと数を変えて1週間程度
餌が残るようにしました。

アメリカザリガニやウチダザリガニは大食漢であり、夜行性であるため日中は暗い方を好みます。この習性を利用して、明室の餌を1週間残存させて継続的に蝟集させ、明室へ侵入したザリガニ類を隣の暗室へ誘導して収容します。



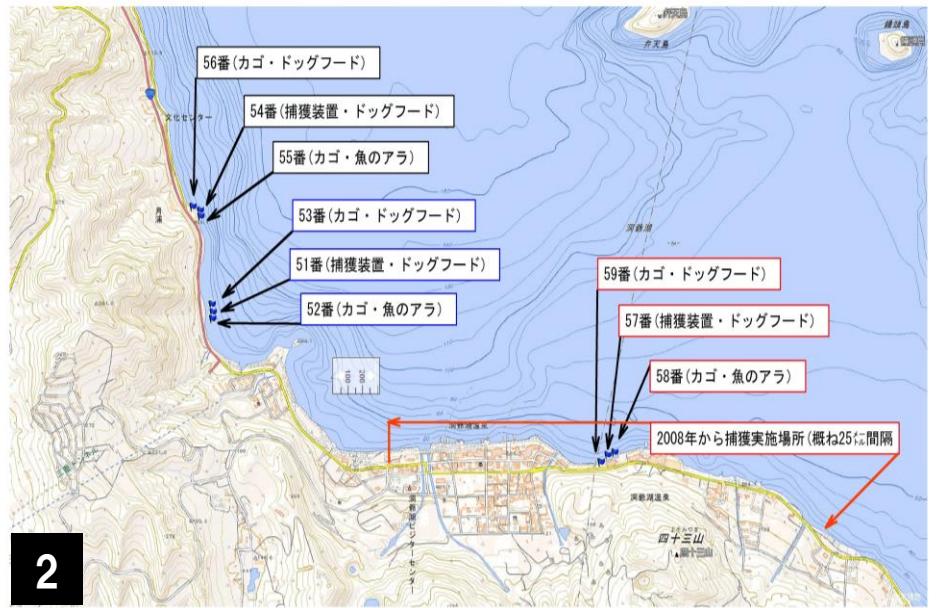
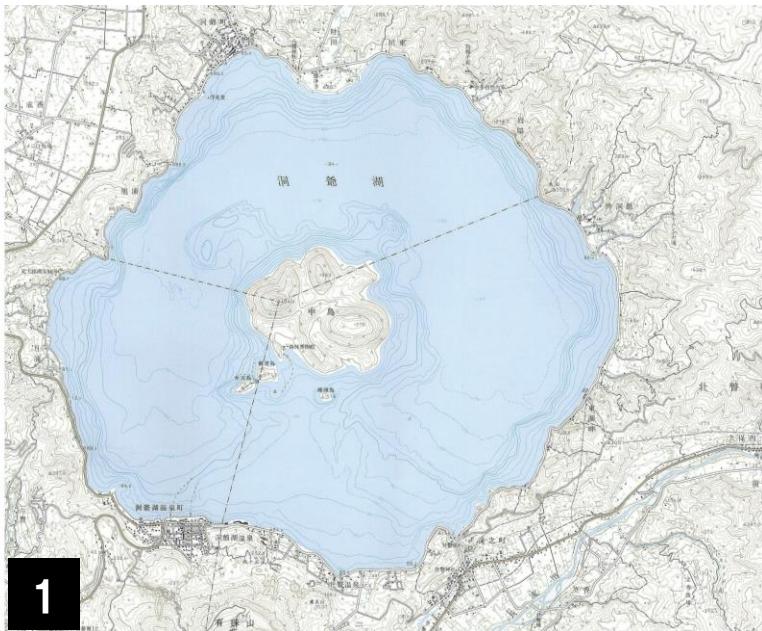


大規模ため池（3.5ha）の2か所で捕獲実験を実施。St1は最下流部の堰堤近く、St2は最上流部。St1では設置1週目に連続捕獲装置の捕獲数が最多の220頭に達し、設置後6週目の8/3まで100頭前後を捕獲し、アナゴカゴ対照区より明らかに多かった。St2も設置後1週目から140頭の大量捕獲、その後も70～150頭を捕獲し続けた。St2では捕獲期間中、常に、下流部から移動加入があったようである。



ウチダザリガニ捕獲実証実験

北海道洞爺湖 UWクリーンレイク洞爺湖との共同実験

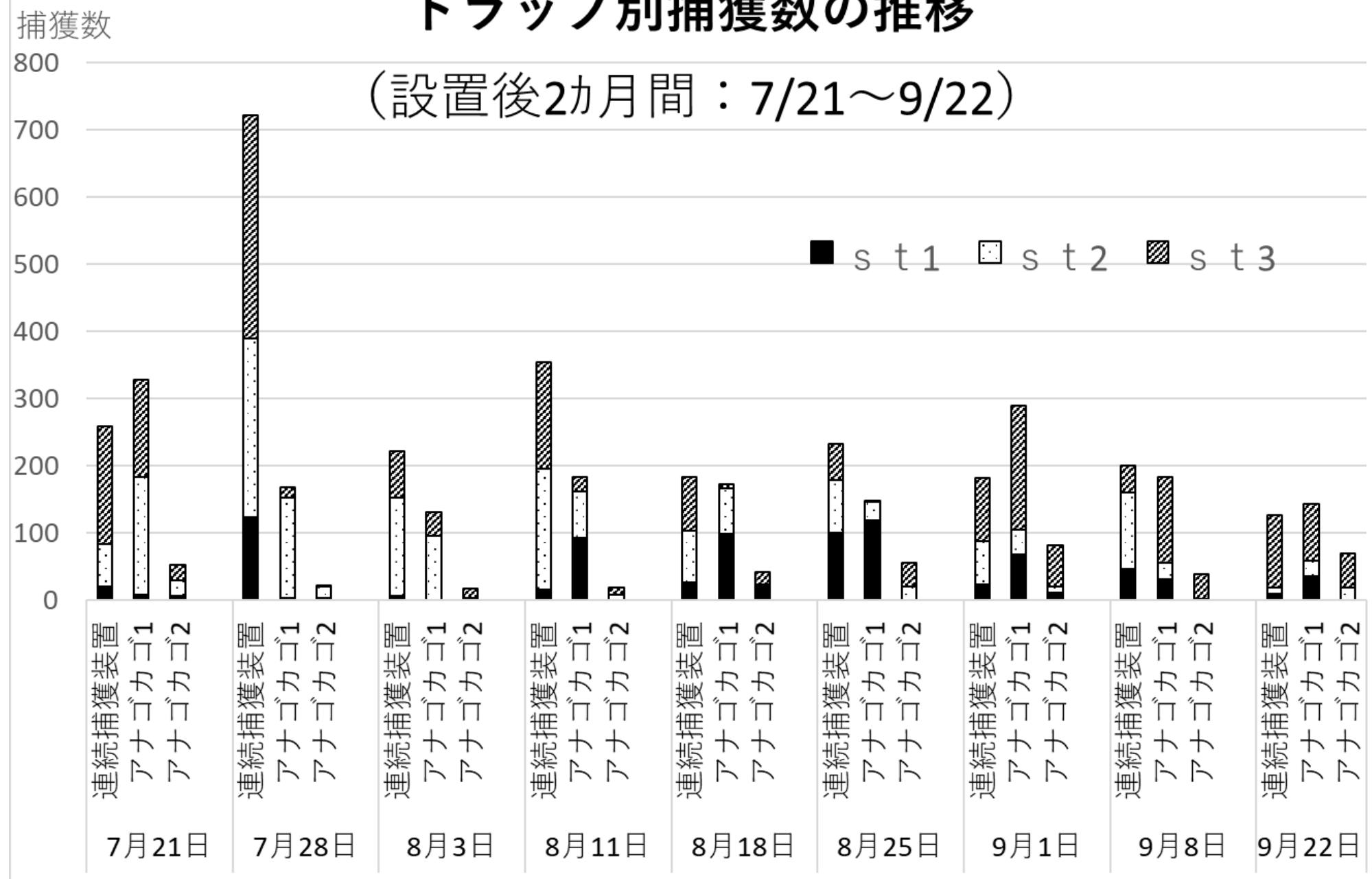


トラップの種類と設置・回収作業：①洞爺湖、②洞爺湖南岸に位置する洞爺湖町沿岸水深10m前後の3カ所に設置。試験区は次の③～⑤の3つ。③連続捕獲装置にドッグフードを詰めたタッパーウェア3個をいれた連続捕獲装置、④対照区1としてドッグフードを詰めたタッパーウェア3個を入れたアナゴカゴ、⑤対照区2として魚のアラを詰めた容器をいれたアナゴカゴ。⑥水深約10mの定点に設置。⑦連続捕獲装置を投入。⑧1週間後に回収したウチダザリガニ。



トラップ別捕獲数の推移

(設置後2か月間：7/21～9/22)



連続捕獲装置は高密度水域（St2とSt3）でウチダザリガニ60～330頭/台を捕獲。設置後2週目に捕獲数が最多となり、4週目まで対称区より多かった。1か月以上経過した8/18以降は捕獲数が減少、アナゴカゴ対照区1と同等になった。1か月間隔で設置場所を移動させることにより、大量捕獲を維持できる可能性がある。

